

会報 JAISA

2026
冬号
第85号



新春賀詞交歓会

2026年1月14日17時から東京・ビジョンセンター新橋で、
新春賀詞交歓会を開催いたしました。多くの皆様にご来場いただき、
新年の和やかなご歓談の場となりました。
本年も会報JAISAを宜しくお願い申し上げます。



会報 JAISA 冬号 CONTENTS

年頭所感

P2

新春賀詞交歓会

P3

AUTO-IDトップランナーに聞く

P4

デジタル倫理ワークショップ2025

P7

自動認識基本技術者資格認定講習・試験

P8

第22回自動認識総合展大阪ご案内

P9



年頭所感



(一社)日本自動認識システム協会 代表理事長

柴谷 浩毅

新年あけましておめでとうございます。
会員の皆様、並びに関係各位におかれましては、輝かしい新春をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

2025年を振り返ると、日本経済は賃上げや原材料高騰に加え、深刻な人手不足という難題に直面し続けました。企業、特に製造業には、為替リスクへの対応と並行し、「自動化・無人化」という構造改革が急務となりました。厳しい環境下であるからこそ、生成AIやロボティクスといった先端技術の導入期待がかつてなく高まった一年でした。

このDX(デジタルトランスフォーメーション)の波の中で、我々の自動認識技術(画像、バイオメトリクス、RFID、QRコードなど)は、単なる効率化のツールから、AIやロボットを動かす「データの目」として、その価値を飛躍的に向上させました。企業の競争力強化に不可欠な基盤技術へと進化を遂げたことを、皆様と共有したいと思います。

技術進化と協会の実績

当協会の調査では、自動認識関連機器・ソフトウェアの出荷実績は、昨年の大型案件の影響で2024年は前年並みでしたが、依然として堅調な成長基調を維持しています。自動認識は、もはや社会の「インフラ」です。

昨年の「自動認識総合展」では、出展規模が拡大し、新規来場者が全体の51%を占めました。これは、自動認識技術が「未来への期待」を担う存在として広く認知された証です。特に、生成AIと連携した事例が「自動認識システム大賞」の受賞作品の半数を占めたことは、我々の技術がAIと融合し、「次世代の自動認識」を創造するフェーズに入ったことを示しています。

また、技術者資格認定制度については、講習のオンライン化とオンデマンドによる再視聴期間の拡大により利便性が向上し、仙台、名古屋、大阪、福岡など東京以外の会場での受験者も増加しており、全国的な人材育成に貢献しています。中小企業の省力化を支援する省力化投資補助事業への製品登録も継続しており、現場の課題解決に直結する支援を進めています。

2026年、協会の注力テーマ

2026年、JAISAは改めて「SX(サステナビリティ・トランズフォーメーション)とDXに貢献する自動認識システム」を標榜し、以下の3点に注力します。

- 普及啓発と価値向上**：自動認識技術がDXに不可欠な「データ収集のデファクトスタンダード」であることを広くアピールします。特に、生成AIとの連携事例の創出と普及に注力し、技術の「価値」を底上げします。その一環として、2月には「自動認識総合展 大阪」を開催し、地方での普及を強化します。
- 人材育成と利便性の向上**：自動認識技術者資格認定制度の利便性を活かし、受験機会の拡大を継続します。「基礎知識セミナー」を企業内教育として活用できるよう認知度向上に努めます。
- 会員サービスの拡充**：会員への情報提供・教育支援、情報発信の機会提供を充実させ、「JAISA会員であることの利点」を広くアピールし、会員基盤を強化します。



結びに、変化のスピードは速まる一方ですが、自動認識技術は社会の課題を乗り越え、企業の持続的な成長(SX)と変革(DX)の鍵を握っています。本年も、皆様と力を合わせ、自動認識システムの価値向上と普及啓発に邁進する所存です。

皆様の益々のご発展とご健勝を心よりお祈り申し上げ、年頭の挨拶といたします。



新春賀詞交歓会

自動認識業界のさらなる飛躍に向け昨年を上回る来場者に

一般社団法人日本自動認識システム協会(JAISA)は、2026年1月14日(水)17時から、東京・港区のビジョンセンター新橋で新春賀詞交歓会を開催しました。会場にはご来賓・会員様・ご招待客ほか関係者をあわせ約200人が参加して盛大に行われました。

賀詞交歓会は、はじめにJAISA柴谷浩毅が新年のご挨拶を述べ、続いて来賓を代表して経済産業省須賀千鶴様よりご挨拶をいただきました。乾杯に続き、今年度新たに入会された会員様のご紹介ほか、中締めまで、新年の和やかなご歓談の場となりました。

JAISAは本年も会員様とともに、自動認識技術の活用促進をはかり、経済の発展と社会生活向上に貢献すべく活動してまいります。

JAISA柴谷会長新年のご挨拶要旨

2026年の新春を迎え、謹んでお慶び申し上げます。

昨年は多くの変化があった一年であった。大阪・関西万博は、未来社会の姿を示す場とし2,500万人以上が来場し、持続可能性や先端技術への関心を高める契機となった。一方、サイバー攻撃による大型の被害が多発し、経済安全保障にも大きくスポットがあたり、情報取得や管理の在り方についても、多くの課題が顕在化した。

経済面では、米国関税に注目が集まるなか、日経平均株価は史上最高値を更新し、さらにAIや半導体を中心とした技術革新によって新たな局面を迎えており、特に生成AIの進化は、ビジネスや生活の在り方を大きく変え、製造業や物流業界においても効率化・自動化の取り組みを加速させている。

こうした潮流の中で、自動認識業界は堅調な成長を続けている。今後は、RFIDのさらなる普及に加え、生体認証や画像認識がAI技術と融合し、スマートファクトリーやサプライチェーンの高度化に大きく貢献することが期待される。

自動認識技術とAIの連携は、業界の競争力を強化し、相乗効果を最大化するために不可欠な要素であり、その重要性は一段と高まっている。

2026年が皆さまにとって希望に満ちた一年となりますよう心よりお祈り申し上げ、自動認識業界のさらなる飛躍を祈念し、年頭のご挨拶といたします。



経済産業省 製造産業局
産業機械課 課長

須賀 千鶴 様



一般社団法人日本自動認識
システム協会 代表理事長

柴谷 浩毅

須賀千鶴様新年のご挨拶要旨

新年明けましておめでとうございます。

昨年末から年明けに国際情勢に関わる多くのニュースが流れ、国際経済、治安について不安定な要因が見て取れる。官民一丸となって難局を乗り切りましょう。高市内閣の成長戦略では「責任ある積極財政」、「危機管理投資」と「成長投資」を掲げ、異次元の支援策を用意している。皆様やお客様の会社に活用いただきたい。

自動認識技術は我が国産業の省人化、消費者の利便性向上にクリティカルな基盤の技術となっている。昨今、AIは話し相手としてだけでなく、リアル、フィジカルな分野に登場し、次世代の成長産業であるという見方がある。政府では「AIロボティクス戦略」を各省連携で進めており、自動認識の取り組みもあわせて盛り上げていく。

高市政権となって省内の仕事のペースが一段と加速している。赤沢大臣も「今年は馬車馬のように働く」と宣言されており、省内一同しっかりといい仕事をしていきます。

2025年度新入会企業様 (2026年1月現在)

RFID plus One	(株)イー・ビー・エル
(株)eビジネスソリューション	エブリ(株)
LP&D Laboratory	(株)オキタグ
グローリー(株)	ジーエルソリューションズ(株)
(株)昭芝製作所	大同産業(株)
帝国インキ製造(株)	東リ(株)
ニューランドAIDCジャパン(株)	HaReコンサルタント
富士フィルムメディカル(株)	(株)ムクイル

AUTO-ID



トップランナーに聞く

株式会社ハヤト・インフォメーション

大坂 泰弘 様

わかりやすく、使いやすい。
ICタグを誰でも使えるように、
いろいろな切り口を見つけて情報発信している。
一貫してRFIDの普及に努める大坂さんに
インタビューしました。

— はじめに、就職の経緯について伺います。大学生の頃はどのような研究をされていましたか？

大坂 学部は総合政策学部というところでした。よくわからない名前ですね(笑)。2000年代のはじめ、地域コミュニティがインターネットでつながり始めた頃でしょうか。地域活性化、今で言う地域創生がIT導入でどのように変化しているかを現場に行って調べることを行っていました。街づくりをしている人たちの活動の性質の変化や、ITによる新たな人のつながりとか。

— ご卒業後の就職先は？

大坂 大学を卒業したのは2001年でした。少しITをかじって、興味があるのでSier(NTTとIBMの合弁企業)に就職しました。暫く営業でしたが、<新規事業を立ち上げなさい>というミッションをいただいたので、RFIDソリューション事業部をつくったんです。当時RFIDはまだHF帯しか使えず、2.45GHzのパッシブ型が少しあった頃です。顧客が自動車や部品メーカーが多くだったので、そちらにRFIDの提案をして回りました。しかし、数年後<RFIDはまだやかったね>という結論で、事業部は撤退することになりました。

— なかなか導入が進まなかった原因は？

大坂 ICタグの価格が高かったです。それに読取性能がお客様の要求に追いつかなかった。HFなので箱の中の一括読み取りは出来ない。<それだったらバー

コードでいいんじゃない>と言われました。

— 新技術の導入は困難ですね。

大坂 自分としてはRFIDがとても面白いと思っていました。単純に自動化するというだけでなく、人間の機能拡張みたいな、暮らしを変えることができるんじゃないかなという思いがあり、転職を考えたところ、会社から<少し待て>、と言われIBMに出向して引き続きRFIDをやらせていただきました。アメリカはじめ海外ではRFIDがビジネスとして導入され始めた頃ですが、日本ではまだ馴染みがなかったです。商談の規模は大きい案件が多かった一方、私個人としては、RFIDはもっと裾野から広げた方がよいと考えていました。

— 新社会人の頃に、自分が成長するきっかけになったことはありますか？

大坂 2005年に経済産業省のRFID実証実験に参加していました。なかなか忙しく、急に出張することもしばしばで、例えばタイで無線局の申請をした時などは、金曜の夕方に電話があり月曜にはタイに居ました。(笑)

— いまでは、ちょっと考えられないですね(笑)。

大坂 理解がある上司のお陰で現場もうまくいきました。実証実験にはほかの企業の方々も参加されていま

すし、チームワークで事を進めるためのよい経験となりましたし、準備の大切さを学びました。

— 現在、ハヤト・インフォメーションの中では、どのようなお仕事をしていますか？

大坂 営業です。当社では、RFIDを初めて使う方でも簡単に導入できる製品をラインナップしており、トライアルセット(PC込み)をお送りして、先ずはお客様でタグを貼って実際に使っていただいています。シンプルな仕組みで資産管理や棚卸など何にでも使えるので、お問い合わせをいただいて翌週から使える商品も多く取り揃えています。RFIDは大企業が使うイメージを持たれがちですが、実際にはPCより安い価格で始められるので、幅広いお客様にお使いいただいています。

— RFIDの導入が加速したのはいつ頃からでしょうか？

大坂 コロナ禍にあった頃、密を避けるようになって、現場で人が集まって棚卸ができないということもあり、仕事のやり方を変えていくユーザーが増えました。人手不足も要因のひとつで、RFIDの問い合わせが増加しました。

また、アパレルの店舗などで、誰でも一括読み取りを体験できることもRFIDの普及に繋がっていると思います。

— 御社は沖縄に拠点がありますね。利点は何ですか？

大坂 2013年から沖縄に拠点を作り、現在開発部門が中心で、エンジニアが働きやすい環境だと思います。沖縄県は企業誘致を積極的に進めていて、多くの優遇施策があります。採用面でも、エンジニアを探すのは難しいですが、<沖縄で働きませんか?>といったUターン/Uターンセミナーも多く、インキュベーションが充実しています。

沖縄にはRFIDユーザーも多く、ユニークな事例では、7年前に沖縄科学技術大学院大学(OIST)から問い合わせをいただいた以来お付き合いをしており、現在、校舎内の資産管理で約30,000枚のICタグがモノや場所に貼られています。例えば、部屋の扉にICタグがあって、部屋にある資産と紐付けてあり、読むと画面上に資産が一覧表示されます。棚卸では部屋にある個々のタグを読んで消込みをしていきます。以前は天井裏に定置R/Wを40台程度設置して、校内の資産(机、研究機材、PC、椅子など)の移動をトラッキングしたこともありました。

また、書類管理(学内便)の運用では、台車にアンテナを載せ、収集した書類を読み取り、台車の移動にあわ

せ書類の所在地がわかるようにしています。

— 先進的な研究機関さんをユーザーに持つといろいろなアイデアがもらえて気付きも多いですね。

大坂 そう思いますね。長くお付き合いいただけている要因でもあります。OISTには保育園も併設されていて、学長はじめ海外のスタッフが多く、レジデンスも充実しています。まるでリゾートホテルみたい(笑)。保育園での入退管理では、はじめHFのカードでピッと読んでやろうとしましたが、子供を抱いたままだとカードが出しにくいということで、UHFを使い自動で開くようにしましたこともあります。

— ハヤト・インフォメーションは、どのような会社ですか？

大坂 ひとことで言うと<ICタグで遊んでいる会社>でしょうか。自分たちが使っていないとよさがわからないし、伝わらない。そんな使い方があるんだ、と思ってもらえるような提案をしたいです。そのためイノベーションタイムを設けて、業務時間内で業務とは関係ないアイデアを考えて会議で発表しています。当社の開発チームは手が早いスタッフが揃っていて、おもしろいアイデアやお客様の要望、案件に応じたソフトウェアをまず試作して、それが良ければ商品化することもあります。



— 子供たちに向けたイベントも行っていますね。

大坂 沖縄の名護市にあるマルチメディア館で、久辺テクノフェスタが毎年開催され、インキュベーションの施設入居企業が製品の展示や、ハンドメイドワークショップを行っています。親子連れや多くの子供たちも遊びに来ます。

小さい頃からICタグを使っていると、成長するに連れてより上手に使えますよね。学校ではプログラミングの教育は進んでいますが、画面の中だけのことになってしまいがちです。今後多くのことがAIに置き変わって

いなかで、モノをプログラムに紐づけるのはNFCが得意なところ。プログラミング教育とITのリテラシーの中でICタグ-NFCが果たす役割は大きいと思っています。



大坂氏はJAISAの<未来のAUTO-IDプロジェクト>展示会ワーキンググループのリーダーとして、子供たちに向けた展示会の企画・運営にも関わっています。



— ここで、自動認識業界の若手に向けたメッセージをいただきたいのですが。

大坂 毎日ICタグを貼ってください。仕事でも個人用でも。プログラミングしなくてもすぐ使えるのがいまのICタグの良いところです。思い付いたことを実践して、良かったらお客様に教えたりすることで提案力も上がるし、技術の魅力を伝えやすくなると思います。手前みそになりますが、私の実家に子供の写真がありまして、フォトフレームにICタグを貼って、両親がスマホで読むと孫の写真のスライドショーが見られるようにしてあります。写真を更新しておくと喜んで見てくれます。

— ご両親もRFIDユーザーですね(笑)最後に、これから自動認識はどのように変わっていくと思いますか。

大坂 さまざまな技術が垣根なく繋がり、ハイブリッドに使えるようになるでしょう。HF/UHFにビーコンの機能が載って、遠くても近くても個人のスマートデバイスで読み取ることができ、それがアプリケーションの領域を広げていくでしょう。

— そこで大坂さんは何をしますか?

大坂 もっともっと面白い自動認識の使い方を見つけていきます。自分の頭には限界があるから、ネタを用意してパートナーさんやユーザーさんといろいろなユースケースを作っていく。人間の行動を変えていくようなことができれば本望です。



PROFILE

大坂 泰弘 おおさか やすひろ

株式会社ハヤト・インフォメーション

役職 RFID/NFC エヴァンジェリスト

趣味 RFIDを活用する様々な活動、最近では少年サッカーにおけるRFID活用に凝っています

モットー あれこれ考えるな、とりあえず貼ってみよう

デジタル倫理ワークショップ2025

生体認証を円滑に導入するポイントを学ぶ<デジタル倫理ワークショップ>

JAISA研究開発センターバイオメトリクス部会

地域の安心・安全と社会課題の解決に貢献する生体認証

JAISAバイオメトリクス部会では、生体認証の導入ポイントを学ぶ<デジタル倫理ワークショップ>を昨年から開催しており（参加費無料）、8月に東京で、10月に札幌、12月に博多で行われました。

近年、生体認証の技術的発展に加え、AIの性能も向上しており、B to B to C市場への拡大や業務改革に欠かせない技術として取り入れられる一方、基本的人権・プライバシーの侵害や個人情報の目的外利用が指摘され、導入がスムーズに進まないケースも見受けられます。このワークショップでは、我々の住む地域の安心・安全、社会的課題である人手不足の解消、高付加価値のサービス実現に向けて、生体認証の導入に関わる課題や問題点を協議し、円滑に導入するためのポイントを考えます。

JAISAでは、経済産業省からの受託事業「異業種連携生体認証プロセスに関する国際標準化」として、これらの利活用と標準化活動を、バイオメトリクス部会が実施しています。

【ワークショップの講師】

恩田さくら氏 (一財)日本情報経済推進協会電子情報利活用研究部主幹

木村一輝氏 丸の内総合法律事務所弁護士

松本真和氏 日本電気(株)フェロー室室長



グループワークで課題を抽出、解決策を討議

生体認証は現在、顔認証システムの多くが、人の行動分析として施設や防犯目的で利用され、指紋・静脈・虹彩認証は本人の認証として利用され、それらの利用履歴等も含め(個人情報保護に配慮した上で)市場分析などに利活用されています。

本ワークショップの当日のプログラムは、<ケーススタディ1:普及のための課題>として、交通インフラや病院・銀行などの施設、店舗、住宅などに設置されている防犯カメラや決済端末などで生体認証が利用されるとのメリット・デメリットについて。続いて<ケーススタディ2:異業種連携>では、地域の安心・安全や人手不足解消、付加価値向上をはかるための連携ポイントをテーマに、さまざまな施設で生体認証によって取得されたデータの利用目的と施設間のデータ連携について、専門家講師によるセミナーとグループワークが行われ、積極的な意見交換がありました。

グループワークでは、ワークショップ開催地の主な産業(観光、交通など)をテーマに、生体認証システムについて「無理やり操作させていないか」「不平等、差別が生まれていないか」「利用者に周知すべき事項は」などの例題をもとに、参加者は消費者の目線で利便性やセキュリティ、個人情報保護などの観点で自身の意見をメモに書いてワークシートに貼り付け、体系的に意見を集約した後、グループ発表を行いました。

参加者の感想

ワークショップに参加された方々は、いずれも一般企業のビジネスマンで職種はさまざま。アンケートには多くのご意見をいただきました。(一部抜粋)

サービスのアイデア出しの難しさに気付いた

デジタルエシックスの重要性と難しさがよく分かった

少人数で共同で検討していくことが大変良かった

次回は海外の動向を知りたい

現場主義で考えいろいろな視点を知る機会になった

ISO、法律のガイドライン情報はありがたい

自動認識基本技術者資格認定講習・試験

昨年7月と11月に全国6会場で資格試験を実施

2025年度の自動認識基本技術者資格認定講習・試験が、昨年7月12日、11月15日に実施されました。

本講習・試験は、自動認識技術を活用したシステムの導入・改善などの技術的ニーズに対応する、エンジニアリング業務、販売・販売支援業務に従事する自動認識技術者の育成・拡大を目的としてJAISAが実施しています。

自動認識基本技術者資格認定講習・試験は年2回、昨年は7月12日に東京、大阪、仙台で、11月15日に東京、名古屋、福岡で実施しました。

また今年度のRFID専門技術者資格認定講習・試験は、2026年2月5日から講習が始まり、2月14日に東京で試験を行います。

資格等級と対象者

■自動認識基本技術者資格

「バーコード・二次元シンボル」「RFID」「生体認証」「標準化」の4科目を基本とする知識を習得します。対象者はおもに、自動認識システムに携わる企業の新入社員、中堅社員、学生、一般社会人などで、会員・非会員ともに受験が可能です。

■RFID専門技術者資格

「RFID」の専門的な知識を習得します。対象者は、「自動認識基本技術者資格」を取得し、さらに専門的な知識の習得を目指す方です。

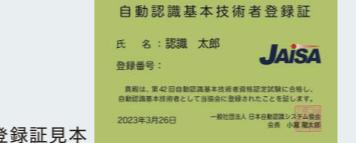
今年度の自動認識基本技術者資格認定・ 講習試験の受験者

自動認識基本技術者資格認定講習・試験の受験者は、昨年7月12日が135名(東京78名、大阪50名、仙台7名)で、合格者は89名(合格率67.4%)でした。昨年11月15日は受験者が198名(東京120名、名古屋58名、福岡20名で、合格者は121名(合格率62.4%)でした。

自動認識基本技術者資格試験は2004年から実施しており、現在までの受験者数は4,916名(累計)、合格者は3,153名となっています。また、RFID専門技術者資格試験は2006年から実施しており、現在までの受験者は588名(累計)、合格者は311名となっています。

資格取得者の認定

JAISAでは資格試験の合格者に登録証、登録証明書を発行し、Webサイトで氏名を公表しています。
(希望により非公開有)



<2025年度自動認識技術者資格認定講習・試験の日程>

第54回 自動認識基本技術者資格認定講習・試験

2025年7月3日(木)	講習【標準化/RFID】
7月4日(金)	講習【バーコード/バイオメトリクス】
7月5日(土)~11日(金)	講習オンデマンド配信【全科目】
7月12日(土)	試験会場【東京/大阪/仙台】

第55回 自動認識基本技術者資格認定講習・試験

2025年11月6日(木)	講習【標準化/RFID】
11月7日(金)	講習【バーコード/バイオメトリクス】
11月8日(土)~14日(金)	講習オンデマンド配信【全科目】
11月15日(土)	試験会場【東京/名古屋/福岡】

第20回 RFID専門技術者資格認定講習・試験

2026年2月5日(木)	(3日間とも) 講習【RFID】
2月6日(金)	形式:JAISA会議室 時間:9:00~16:00
2月7日(土)	
2月14日(土)	試験会場【東京】 時間:13:00~14:30

第55回自動認識基本技術者試験秋葉原会場



第55回自動認識基本技術者試験JAISA会場



*自動認識技術者の座談会が会報JAISAに掲載されています
<https://www.jaisa.or.jp/action/aim/pdfs/vol82.pdf>



出展社・出展内容 (2026年1月現在)

(株)RFIDアライアンス／エイリアンテクノロジー	(株)サトー 新製品 スキャントロニクスCL4-SXR、ラベル自動貼付機、入出荷・在庫管理ソリューションパッケージなど	(株)ビジコム 物流・製造・小売業界の入力のDXを極める業務用デバイス・モバイル端末
アイニックス(株)	積水樹脂(株) 最新の業務用モバイル端末をはじめ、各種自動認識機器をご紹介いたします。	(株)マーストーケンソリューション 製造・物流DXのRFIDやAI検査・フォークリフト安全対策など多数展示
アクセンチュア(株)	ゼネラル(株) 現場業務を効率化し、OSや端末に左右されないアプリ開発を実現するツール	(株)リコー シリコンライナースラベル、フェノールフリー製品
Atchip IoT (Shanghai) Co.,Ltd.／東機通商(株)	(株)デンソーウェーブ 製造現場の生産性を向上するRFID等のソリューションをご紹介致します。	ポスター展示コーナー
オカベマーキングシステム(株)／(株)ケーウェイズ	TOPPAN(株) 製造・物流・医療などの現場を効率化するソリューションを紹介	(株)イー・ビー・エル (株)テラコード研究所 (株)ムクイル／出版・関連団体
GIGA-TMS.INC	ニッタ(株) ユニフォーム向けリネンタグ、金属対応タグ	GS1 Japan((一財)流通システム開発センター) (有)流通情報ラベル社 日本工業出版(株)
(株)サイレンスネット	(株)ハヤト・インフォメーション/HASTEM (株)／(株)大和コンピューター／(株)LIFE 川上から川下まで、生産から店舗・消費者までつなぐRFIDソリューション	※会場内に出演各社のDX事例ポスターを展示

関西唯一の自動認識機器、ソリューションの専門展示会

AUTO-ID & COMMUNICATION EXPO
第22回自動認識総合展 大阪

2026.2.19^T_U-20^F_R 10:00-17:00

マイドームおおさか 1F展示場

〒540-0029 大阪市中央区本町橋2-5 TEL. 06-6947-4321

自動認識総合展大阪 検索 www.autoid-expo.com



公式サイトはこちらから▶



入場無料
(登録制)

